



2011～2012年度

中津平成週報

Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2011～2012年度
国際ロータリー・テーマ

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

国際ロータリー会長
カルヤン・バネルジー

国際ロータリー2720地区 中津平成ロータリークラブ

会長 二反田新一 幹事 若松 定生 会報担当 熊谷 直輔 クラブ広報委員長 川崎 潤

例会日/毎週木曜日 12:30

例会場/グランプラザ中津ホテル TEL 0979-24-7111

事務局/〒871-0055 中津市殿町1383の1 中津商工会館2F

TEL 0979-22-9716 FAX 0979-22-9722

e-mail office@n-heisei.org

<http://www.n-heisei.org/>

第1060回例会 平成24年2月23日(木)

●本日の例会プログラム 会員卓話 「社会的養護について」

出納皓雄会員

◎次回例会プログラム 「協育のすすめ・教育の協働」

中津市教育委員会生涯学習課



前回(1059回例会)の記録

平成24年2月16日(木)

■ゲスト

なし

■出席報告

会 員 数 25名
免 除 者 数 1名
対 象 者 数 24名
本日出席者 18名
欠 席 者 数 6名
出 席 率 75.00%

■ビジター

山本洋一郎(中津RC)

■前々回出席報告の修正

前々回欠席者 7名
メイクアップ 1名
欠 席 者 6名
修正出席率 70.83%→ **75.00%**

●メイクアップ

二反田(中津)

●欠席者

仲本・土居・松本・矢頭・川崎・長野(定)

◎ロータリーソング それでこそロータリー

◎会長の時間 会長 二反田新一

先週例会で「抜粋のつづり」を受け取りました。この冊子は、金庫メーカーとして国内No.1のシェアを誇る老舗の(株)クマヒラ、(株)熊平製作所が毎年1月29日の会社の創業記念日に発行しているものです。今年は創業114年目にあたり、この冊子は創業者の熊平源蔵さんが昭和6年から戦中戦後の数年間を除いて毎年発刊され続けています。今回のものは「その71」と書かれています。題字は、京都・清水寺の元貫主の大西良慶和上によるものだそうです。

内容は皆さんご存知の通り、一年間の新聞、雑誌、書籍などから、エッセイやコラムを抜粋しまとめたものであります。内容は言うまでもありませんが、「継続されていること」、「配布の範囲が広いこと」に驚かされます。昭和6年の創刊から、現在三代目の経営者に至るまで約80年、「企業として社会に奉仕したい」という創業者の思いの継承、毎年45万部を海外150か国、国内ではロータリークラブをはじめ8万数千か所



の団体・個人に無償配布を行っていることに頭が下がります。

さて、今回の71冊目は漫画家の「やなせたかし」さんのエッセイが掲載されています。今年93歳になる高齢の「やなせ」さんですが、その人生は病気との戦いであつたと綴られています。彼の代表作「アンパンマン」のテーマソング「アンパンマンマーチ」の歌詞「何のために生まれて、何をして生きるのか」は人生のテーマでもあると書いていますが、これは私も含め皆に共通のテーマであると思います。

やなせさんが七転八倒の生活を送っている最中に作った歌に「手のひらを太陽に」があります。その一番の歌詞は「僕らはみんな生きている、生きているから悲しいんだ」です。最初が「嬉しいんだ」ではなく、「悲しいんだ」が来るのはいかにもやなせさんらしい言い回しで、悲しさを経験するから喜びがわかる、悲しみも喜びも表裏一体、アンパンマンとバイキンマンの関係も単なる善悪で終わらない、なにか深く温かいものが流れています。

「何のために生まれて、何をして生きるのか」 やつと答えをだすことができた時、やなせさんはもう60歳を過ぎていたと書いています。「人を喜ばせるために生きる」この単純明快な



2011～2012年度

中津平成週報

Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2011～2012年度
国際ロータリー・テーマ

「こころの中を見つめよう
博愛を広げるために」

事に気づいてから、視野が開け、肩の力が抜けて、人生が楽しくなったと言っています。

人を喜ばせること、人の役に立つこと、人間の幸福は人と人とのつながりの中に存在することを、長い人生を経験してきたやなせさんのエッセイから教えられました。

◎幹事報告 幹事 若松定生

●例会変更 別府RC、別府北RC、別府東RC、宇佐2001RC

●週報受理 本渡RC、天草中央RC、八代RC、津久見RC

●幹事報告

・RI2720地区大分第一分区分ガバナー補佐より公式訪問日程調整のお願い

・本日、第4回クラブ協議会を6:30より花満で開催



◎ニコニコボックス

〔二反田会長〕クラブ協議会開催のお礼。会長の時間の原稿の遅れのおわび。

〔梶原会員〕今日の卓話のお礼。

〔小路会員〕ものわすれについての解説。

〔矢頭会員〕特になにもありませんがニコニコの担当のお礼。

◎会員卓話

「文房四宝について」 梶原清二会員

文房四宝の文房とは書斎の事で、四宝は四つの宝を意味します。したがって文房四宝とは書斎に常備している四つの宝の事です。その四つの宝とは「墨」、「硯」、「筆」、「紙」の四つです。今日は「墨」についてお話してみようと思います。

墨の歴史

墨の記録としては、「日本書紀」の巻22、推古天皇(18年610)の条に「18年春3月高麗王貢上僧曇微、法定曇微知五経且能作彩色及び紙墨、造碾磑蓋造、碾磑始干貞時」とあり、この記述により推古天皇の御代に筆墨などの製法が伝来したといわれています。これが我国最初の墨づくりの文献です。聖徳太子の「法華経(三経)義疏」は曇微がもたらした松煙墨で書かれたものといわれています。正倉院御物として墨は16丁が伝世品として伝わっています。

◇大化の改新後、710年に制定された「大宝律令」には墨造のことも記録されており、墨の製造を司る役職も定められました。

◇奈良時代には、京都(和東) 兵庫(播磨) 奈良(平城京)などで墨がつくれ、写経などに使われていました。

◇平安末期には和歌山(藤代) 滋賀(武佐)などの墨が有名でした。

●奈良墨の発展

奈良墨の特徴は、油煙の墨を我が国で、はじめて製したことです。これは室町時代明德応永(1390年頃)興福寺の二諦坊の性嚴が持仏堂の灯火のすすを集め、膠と混ぜて墨をつくりました。時期は室町時代の足利義満の頃です。二諦坊では明德応永(1394-1413)頃に最も多くの墨がつくられたようです。

天正年間(1573-1591)に松井道珍(古梅園の祖)が製

墨の研究をはじめました。以後、製墨業が盛んとなり奈良の産業となって、奈良墨の名声は高まり、名産として各地で愛好され今日に至っています。

●墨の原料

煤と膠と香料

・煤—松煙と油煙がある。

☆松煙の製造方法

1. 松の木に傷をつけ、切り口に溜まった松ヤニを削り取る。

2. 紙障子で囲った部屋にカマドを築き周囲にたまったすすを採取する。

松煙墨は年代がたつと墨色に変化する。

☆油煙の製造方法

1. 器に油を入れ、灯芯をおき、火をつける。

2. 器の上に蓋となる土器を据え、中にすすを付着させる。油煙のすすは、粒子が均一で細かく、いつまでも墨色に変化せず、良い油煙墨は光沢がある。

・膠(にかわ) —牛・馬・鹿などの動物の骨や皮とニベ(外皮と内質の間にある結合組織)を釜で煮る。

・香料 —龍脳・麝香(じゃこう)

龍脳—ボルネオ・スマトラ産の喬木の樹液。白色の結晶で香料の原料となる。

麝香—中国の雄の麝香鹿から採るものがよい。

☆木型

梨の木や、びわの木でつくる。菓子型とにている。

●製墨の方法

1. 膠液をつくる

膠と水を入れた器を、それより大きな湯の入った器に入れ溶解する。

2. 原料の混合と攪拌

炭素末(すす) 3.75kgと膠2.25kgに香料を混ぜ攪拌する。

3. 精練

練り合わせた原料を板の上でよく練り、小分けしてさらによく練る。

4. 型入れと取り出し

原料を木型に入れ、一定期間プレスしたあと取り出す。

5. 乾燥I・II

I 取り出した墨は、すぐに生灰の入った箱に入れ水分を除く。はじめは、水分の多い灰を使い、10日から1ヶ月、毎日乾燥度の高い灰に入れ替える。
II 20-30丁を藁で編み上げ、天井からつるし、1〜3ヶ月乾燥させる。

6. 磨き

乾燥途中で表面についた灰を、素早く水洗いし、すぐふき取る。仕上げは、はまぐり貝で磨く「トギ仕上げ」と、同質のすすをうすく塗る「生地仕上げ」の方法があり、あと井型に組み乾燥させる。